



ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
3-26-8, 4F Kanda Ogawamachi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0052, Japan.
Tel: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

プレスリリース
解禁日時：2025年2月21日

日本イコモス賞・日本イコモス奨励賞 2024 選考結果報告書

◆ 2024 年度の賞の選考

2024 年度は日本イコモス賞 4 件、日本イコモス奨励賞 2 件の応募があった。選考委員会において、慎重に検討、協議を行った結果、下記のとおり、日本イコモス賞 2 件および日本イコモス奨励賞 2 件を選定した。

日本イコモス賞・日本イコモス奨励賞
選考委員会

委員長 加藤 友規

幹事 石崎 武志

北河大次郎 豊川 斎赫 丸井 雅子 <50音順>

日本イコモス賞 2024

【受賞者名】 mASEANa Project実行委員会

【受賞題名】 mASEANa Project (2015-2020) (マセアナプロジェクト)

【推薦者】 稲葉信子 氏

【受賞者名】 正垣孝晴

【受賞題名】 日本近代化遺産の地盤工学的研究と保全活動

【推薦者】 岩崎好規 氏

日本イコモス奨励賞 2024

【受賞者名】 海野聡

【受賞題名】 日本における木造建造物の継承思想の特質と保存に関する一連の調査・研究と著作

【推薦者】 苅谷勇雅 氏

【受賞者名】 中山利恵

【受賞題名】 『「洗い」の日本建築史』の著作による日本の伝統的な木造建築の保存再生への貢献

【推薦者】 田原幸夫 氏



ICOMOS Japan
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
3-26-8, 4F Kanda Ogawamachi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0052, Japan.
Tel: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

受賞業績（題名）と授賞理由

日本イコモス賞 2024

【受賞者名】 mASEANa Project実行委員会（林憲吾、村松伸、山名善之、Johannes Widodo）

【受賞者プロフィール】

東南アジア諸国における近現代建築の記録・評価・保存の促進を目的に、国際交流基金とDOCOMOMO Japanの共催事業“mASEANa project”として2015年に設立された。日本およびASEAN各国の学生を中心に研究者、実務者によって構成される。共同代表は村松伸、山名善之、ヨハネス・ウィドド。DOCOMOMO InternationalやICOMOS ISC 20Cの学術後援を受けながら、2021年までに8カ国9都市で調査・学術交流、国際会議をおこない、2024年には東南アジアにおいて900件にも及ぶ近現代建築を採録した書籍（編集代表 林憲吾）を刊行した。名称のmASEANa(マセアナ)は、modern ASEAN architectureの略。

【受賞題名】 mASEANa Project (2015-2020) (マセアナプロジェクト)

【授賞理由】

“mASEANa project”による“Appreciating modern ASEAN architecture”は、東南アジアの近現代建築の記録・保全をテーマとして、2015年より5年間をかけて制作された国際的な活動の報告書である。背景には、東南アジア諸国において経済活動が活発化し、都市の更新が生じた一方で、近現代建築（概ね20世紀）は、価値が定まらず無慈悲に撤去されている状況がある。そのため、本活動は日本のこれまでの経験を通して東南アジアの専門家、市民たちと協働し、理解促進、保全を目的に取り組みされてきた。当該報告書の発行を後押しした社会的要因として、次の三つが挙げられる。

一つ目に、東南アジア諸国では日本と同様に経済発展に伴う施設更新が盛んに行われ、保全が後手に回ってきた点である。二つ目に、ICOMOSのグローバルストラテジーを参照するまでもなく、世界文化遺産を地理的に捉えると西欧諸国に偏り、対象とする時代で捉えると20世紀遺産が皆無に等しい点である。三つ目に、近現代建築の保全は西欧諸国や日本において議論されてきたが、東南アジアの近現代建築の保全に関する研究蓄積が浅かった点である。

こうした逆境を強く意識した同プロジェクトのメンバーらは、2015年より9回に及ぶ国際会議（東京4回、ハノイ、バンコク、ジャカルタ、シンガポール、マニラ）、10回のワークショップ（東京、ホーチミン、ハノイ、ヤンゴン、バンコク、ジャカルタ、プノンペン、クアラルンプール、シンガポール、マニラ）を積み重ね、都度、報告書を英文で発表してきた。成果の一端を述べれば、東南アジア8カ国9都市の近現代建築のリスト化（900棟）の完成により全体像を可視化したことが挙げられる。また、東南アジア8カ国の近現代建築の歴史の初期的完成により、各国と東南アジア全体の近現代建築の概要を提示するなど、これまでにない成果を多々見ることができる。こうした活動のプロセスについても英文で報告書がまとめられており、ウェブサイト(<https://www.maseana.iis.u-tokyo.ac.jp/>)で全世界に発信している。さらに、国際的近現代建築保全組織のDOCOMOMO InternationalとICOMOS International ISC 20Cと連携しながら事業を行っている。

本報告書は長年に及ぶ学術成果をとりまとめ、編集したものであり、国際的にも稀有な取り組みとして高く評価できよう。また、本報告書の出版を通じて、東南アジアの近現代建築の国際的なプレゼンスが向上することが期待される。

以上を踏まえ、日本イコモス国内委員会は、“mASEANa project”の業績を高く評価し、「日本イコモス賞2024」を授与する。



ICOMOS Japan

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
3-26-8, 4F Kanda Ogawamachi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0052, Japan.
Tel: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

【参考資料】

- 1) mASEAN a: Appreciating modern ASEAN architecture (2024年出版)
- 2) The Report of mASEANa Project 2016 2nd & 3rd International Conference: Pioneers of modern architecture
- 3) The Report of mASEANa Project 2017 4th & 5th International Conference : modern living in Southeast Asia
- 4) The Report of mASEANa Project 2018 6th & 7th International Conference : Materiality, Technology and modern movement in the Southeast Asia
- 5) The Report of mASEANa Project 2019 8th & 2020 9th International Conference : Progressive Once More



ICOMOS Japan

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
3-26-8, 4F Kanda Ogawamachi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0052, Japan.
Tel: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

【受賞者名】 正垣孝晴

【受賞者経歴】

地盤工学研究所代表。工学博士（名古屋大学）。APEC Engineer（Civil）。1984年名古屋大学大学院博士前期課程修了。1993年イリノイ大学（University of Illinois at Urbana-Champaign）客員研究員。元防衛大学校教授（2019年停年退官）。2021年ユーラシア国立大学（Eurasian National University）客員教授。受賞：(公社)地盤工学会奨励賞（1989年）、(公社)地盤工学会論文賞（1995年）、(公社)地盤工学会功労賞（2012年）、(公社)地盤工学会技術賞（2014年）、(公社)地盤工学会審査員賞（2014年）、神奈川大学野球連盟功労賞（2015年）、(公社)地盤工学会技術開発賞（2015年）、(公社)地盤工学会事業企画賞（2015年）、など。

【受賞題名】 日本近代化遺産の地盤工学的研究と保全活動

【授賞理由】

正垣孝晴氏は、名古屋大学で地盤工学を専攻し、大学院前期修了、助手を経て、防衛大学校教授（2019年退官）として、近代化遺産を地盤工学の観点から研究を行い、研究成果を地盤工学会等の学術論文として優れた多くの研究成果を発表した。

これらの研究成果は、“日本の近代化遺産-地盤工学からの謎解き-”（技報堂出版）として 2023 年に出版された。研究対象は、江戸幕府による葦山反射炉（安政 4・1857年）から、佐賀藩三重津海軍所（安政 5・1858年）、官営富岡製糸場（明治 5・1872年）、琵琶湖疎水（明治 23・1890年）、東京湾の第三海堡（大正 10・1921年）を含めた世界遺産、重要文化財、国指定史跡、近代化遺産（文化庁）、近代化産業遺産（経産省）、選奨土木遺産（土木学会）に含まれる約 60 施設である。

各施設について一般的な上部構造とともに基礎および地盤の特徴を分析・検討・考察している。遺産建造物下の地盤構成と基礎構造の可視化を通じて、上部構造と基礎構造との不可分な必然性が、建設方法と設計思想とともに検討されている。幕末以降の近代化遺産の建築材料の変遷に関する調査では、レンガ、コンクリート、岩石等に関して、非破壊試験としてのリバウンドハンマー試験で強度を測定し、強度の変化とその実態を分析・考察している。また、基礎地盤の地耐力の評価等には、ポータブルコーン貫入試験や、地盤から採取した土の強度・圧密特性に関しては、一軸圧縮試験等を用いて測定し、地盤特性の定量的な評価を行っている。

地盤と基礎は構造物を支えている重要な要素であるが、文化遺産において認知されたのは2010年に公布されたIS013822が最初で、付属文書にて“遺産構造”が記述された。正垣氏が牽引してきた文化財に関する地盤および基礎という地盤工学的観点を加えたユニークな研究、並びに、その成果は今後ますます重要性が評価されるといえよう。

これまでの研究に基づく文化財保存活動を踏まえ、日本イコモス国内委員会は、正垣孝晴氏「日本近代化遺産の地盤工学的研究と保存活動」の業績を高く評価し、「日本イコモス賞2024」を授与する。

【参考資料】

- 1) 書籍 正垣孝晴 日本の近代化遺産 - 地盤工学からの謎解き- 技報堂出版、2023
- 2) 学術論文 23件（別紙、審査参考資料提出資料）



ICOMOS Japan

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
3-26-8, 4F Kanda Ogawamachi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0052, Japan.
Tel: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

日本イコモス奨励賞 2024

【受賞者名】 海野聡

【受賞者経歴】

1983年生まれ。東京大学大学院工学系研究科建築学専攻准教授。2006年東京大学工学部建築学科卒、2008年同大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了、2009年同大学院博士課程中退。2013年東京大学より博士（工学）の学位取得。2009年8月から2018年9月まで、奈良文化財研究所研究員及び奈良県教育委員会実務研修員等を兼任。2018年10月から現職。

【受賞題名】 日本における木造建造物の継承思想の特質と保存に関する一連の調査・研究と著作

【授賞理由】

海野聡氏は、膨大な文献史料の渉猟と考古資料（発掘遺構や出土遺物）の精査に基づいて文化財建造物の復元を試みた点に、傑出した功績を見出すことができよう。日本建築史及び文化財保存を専門とし、特に木造建築とその建築を包摂する社会や時代の解明を目指した研究において顕著な業績を挙げている。研究の視座や方法論は、特に長年にわたって従事した奈良文化財研究所での都城整備に伴う発掘調査の実務や、国内外の文化財建造物調査を主導した経験によって培われ着想を得たものである。

2015年以降2024年に至るまで、単著8点、共編著5点、論文・報告書など多数の業績があり、最も新しい『古建築を受け継ぐメンテナンスからみる日本建築史』（岩波書店、2024）において主張されたのが、「木造建造物の〈寛容〉な〈継承〉の理念」である。これまでの一連の著作を通じて打ち出されてきたこの海野氏の議論は、最新著書であらためて膨大な史資料を踏まえて論証し、確立された。日本における木造建築は、建築直後から所有者と権力者主導による維持管理行為が体制化し、そこには修理等資材確保に関わる知が長期的に継承されたという実態を解明すると同時に、さらに日本の古建築維持の特徴的な理念として、一定の変化を受容する〈寛容〉な〈継承〉という理念を導き出すことに成功していることは意義深い。

研究対象は史資料の中に留まらず、文化財建造物と史跡それぞれの枠組みを架橋するような理念の提唱にも意欲的に取り組み、業績を積み重ねてきた（「歴史的建造物に関する整備の概念と形成」2021、「実験考古学としての復元—平城宮朱雀門の事例から」2018等）。これらはモデルとして一元化されるような概念ではなく、各文化財・文化遺産が置かれた歴史的環境や現代の社会状況と照らし合わせながら、個々の文化財の保護や活用を構想する必要性を主張するもので、文化財建造物に関わらず広く文化遺産に関わる分野へ大きな示唆を与えてくれるものである。

これらの成果は、日本建築史のみならず、社会史や経済史、そして文化遺産論などの分野を横断して参照されてしかるべき質と方向性を具え、今後の研究及び実務へのさらなる貢献が期待できる。以上の理由により、海野氏による「日本における木造建造物の継承思想の特質と保存に関する一連の調査・研究と著作」に「日本イコモス奨励賞2024」を授与する。

【参考資料】

- 1) 海野聡『古建築を受け継ぐメンテナンスからみる日本建築史』岩波書店、2024年
- 2) 海野聡『再生する延暦寺の建築信長焼き討ち後の伽藍復興』吉川弘文館、2023年



ICOMOS Japan

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
3-26-8, 4F Kanda Ogawamachi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0052, Japan.
Tel: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

- 3) 海野聡『森と木と建築の日本史』岩波書店、2022年
- 4) 海野聡「歴史的建造物に関する整備の概念と形成」『世界遺産研究協議会「整備」をどう説明するか（第一部）』2021年3月(PDF)
- 5) 海野聡「実験考古学としての復元—平城宮朱雀門の事例から」『考古学的知見から読み取る大陸部東南アジアの古代木造建築』東京文化財研究所、2018年(PDF)



ICOMOS Japan

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
3-26-8, 4F Kanda Ogawamachi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0052, Japan.
Tel: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

【受賞者名】 中山利恵

【受賞者経歴】

京都工芸繊維大学 デザイン・建築学系 准教授。博士（工学）。2001年金沢美術工芸大学卒業、2003年東京芸術大学大学院美術研究科修士課程建築学専攻 修了。2003年東京大学生産技術研究所研究生を経て、2005年東京大学大学院工学系研究科 博士課程 建築学専攻入学。2006年から2009年まで、有限会社金沢設計（㈱降幡建築設計事務所金沢分室）所員。2012年東京大学大学院工学系研究科 博士課程 建築学専攻 単位取得退学。東京大学生産技術研究所 準博士研究員（同年9月まで）・博士研究員（2013年3月まで）。2014年金沢美術工芸大学実習助手、2015年京都工芸繊維大学助教 2020年同学デザイン・建築学系 准教授。

【受賞題名】 『「洗い」の日本建築史』の著作による日本の伝統的な木造建築の保存再生への貢献

【授賞理由】

中山利恵氏は、従来の研究史においてあまり注目されてこなかった日本の木造建築に施された「洗い」技術とその領域の存在に着目し、研究成果を『「洗い」の日本建築史—建築の経年と木肌処理技術』（東京大学出版会 2024年）とし、日本建築史上にその存在を示した。本書では「洗い」という行為に留まることなく、それに続く「木肌削り出し」「洗清と清飽」「灰汁洗い」という各章の史料分析などにおいて、現場における詳細な施工の実態にも踏み込んだ解りやすい解説が加えられている。特に専門家にとっては、日本の伝統的な木造建築におけるオーセンティシティとは何かについて、歴史を踏まえた実証的調査に基づき、理念にとどまることなく示された問題提起には、改めて考えさせられる。

中山氏の研究の出発点が、自身の育った古民家という環境にあり、その個人的な興味関心が、やがて日本建築史における新たな展開を目指す研究の視座を開いたといえる。本書の「洗い」研究は、地道なヒアリングや関連史資料の収集と分析から成る、ユニークで個性ある手法を用いており、本人も今後の課題としているように、調査の対象範囲を関西地方から全国または世界へ広げ、更なる歴史的史料、事例研究、職人への聞き取り調査などの展開が待たれる。

本研究は、日本建築史における新たな領域を切り開いて間もないが、今後、伝統的な木造建築の保存再生において、考慮すべき重要な要素となる可能性を秘めている。さらに、中山氏が建築史のみならず、建築の保存再生の実務者であることは、関連する文化財事業において、研究の成果を実践する担い手となり、一層の経験と活躍を期待するところである。日本イコモス国内委員会は、中山利恵氏「『「洗い」の日本建築史』の著作による日本の伝統的な木造建築の保存再生への貢献」の業績を高く評価し、「日本イコモス奨励賞2024」を授与する。

【参考資料】

- 1) 著書『「洗い」の日本建築史』
- 2) 資料「はざまの技術『洗い』の不思議—『「洗い」の日本建築史—建築の経年と木肌処理技術』を刊行して」『UP』東京大学出版会、第619号、2024年5月